令和７年度　第１回　長野県GIGAスクール会議　　議事録

【第１部　長野県ＩＣＴ学び推進協議会】

日　時：　令和７年　５月１３日（火）　オンライン開催　13：30～15：00
参加者：　議事録末尾に掲載（全市町村傍聴可）
内　容：　以下のとおり

司会［学びの改革支援課兼教育政策課：五味指導主事］
　ご参会の皆様、お忙しい中、本日はお集まりいただきありがとうございます。私は長野県教育委員会事務局の五味でございます。それでは、令和７年度長野県GIGAスクール会議 第１部 ICT学び推進協議会を始めさせていただきます。
　本会議は、GIGA スクール構想第２期の端末更新が始まっていることもあり、県内すべての市町村で方向性を確認しながら連携して進めていきたいと考えております。また、県内全ての市町村の教育長で構成される会議体の設置が、更新端末に対する補助金の条件ともなっており、今回の会議には教育長の先生方にもご参加いただいております。本日はご多忙の中、誠にありがとうございます。
　第１部のICT学び推進協議会では、県内のいくつかの教育委員会や学校からご参加いただき、意見交換を行いながら、GIGA スクール構想における県全体の方向性についてブラッシュアップしていきたいと考えています。また、全市町村が傍聴可能となっておりますので、チャット機能を通じてご意見をお寄せいただいても結構です。第２部のGIGAスクール市町村代表者会では、全市町村の教育委員会にご参加いただき、より詳細な議論を進めていきたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

1. 挨拶［長野県教育委員会　武田育夫　教育長］
司会:それでは､開催に先立ちまして､県教育委員会 教育長 武田育夫よりご挨拶申し上げます。

武田教育長：皆さん、こんにちは。長野県GIGAスクール会議にご参加いただきありがとうございます。ちょっと内輪の話になりますが、教育委員会で会議がある際は、それぞれの担当が教育長の挨拶文を考えるという仕組みになっています。普段は、自分の言いたいことと合わないために、原稿を一部だけ使ったり、全面的に書き直したりするのですが、今回は担当が考えてくれた挨拶文が意外と面白かったので、そのまま読ませていただきます。
　本日はご多用の中、長野県 ICT 学び推進協議会にご参加いただき、誠にありがとうございます。本協議会は、ICTを活用した学びのあり方について、県内外の有識者の皆様、市町村教育委員会や学校関係者の皆様とともに議論し、長野県全体での推進体制を築くための重要な場として、令和３年度より開催しており、本年度で５年目を迎えます。本年度からは市町村教育委員会

の教育長の皆様にも構成員としてご参加いただくことになり、これまで以上に実践に即した議論が可能になることを大いに期待しております。GIGA スクール構想第 2 期が本格化し、端末の更新も進む中、令和 7 年度には県内でおよそ 10 万台の更新が予定されています。また、生成 AI の進歩も著しく、子供たちだけでなく、我々大人も困難な時代を生き抜く力が求められることを再確認しなければなりません。

……と、実はここまでの挨拶文は、ChatGPT に考えてもらいました。まずまずの出来ではないでしょうか？ 皆さん、お気付きになりましたか？もちろん、作成後には担当によるファクトチェックを行っておりますが、内容にご不明な点などありましたら、事務局までお問い合わせください。

冗談はさておき、このように ICT や生成 AI の進展を教育現場でどう活かしていくかは、機器の更新にとどまらず、学校や教育委員会のマネジメントの在り方、そして何よりも「子供たちにどんな力を育むか」という視点から考える必要があります。本日は、長野県としての方向性を共有できる貴重な場になれば幸いです。オール長野で連携を深め、本年度も進めていきたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

先ほど申し上げたように、県では様々な会議において、教育長の挨拶文を各担当が作成しています。過去の挨拶まで遡って調べて書くなど、大変な作業です。「そんなに意味あるのか？」と思い、私は今年から「AI で挨拶文を作ってもいい」と伝えており、今回はそのようにしていただきました。ありがとうございました。

現在、県教育委員会では、各学校において教育の DX 化を進め、働き方改革を図っていくことを呼びかけております。私ども自身も、そのような取り組みを率先して実施していきたいと考えています。ぜひ、本日の会議が活発な意見交換の場となり、少しずつでも現場が本来果たすべき教育に専念できるようになることを願っております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

2. 自己紹介

司会：それでは続きまして、本日、協議に参加していただく学識者、教育委員会、学校関係者の皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。所属・お名前・役職を簡単にご紹介ください。

信州大学　村松教授：信州大学の村松と申します。しばらくこの会を離れておりましたが、再び戻ってまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

信州大学　森下准教授：信州大学の森下です。今、松本キャンパスで授業を終え、戻ってきたところでして、バタバタして申し訳ございません。現在、GIGA スクール構想の端末更新に関するワーキンググループで座長を務めております。今後とも、お気軽にお声かけいただければと思います。よろしくお願いいたします。

両川公認心理師：一般財団法人特別支援教育士認定協会理事の両川でございます。公認心理師でもあります。よろしくお願いいたします。

清内路小学校　齋藤校長：阿智村立清内路小学校の齊藤です。よろしくお願いいたします。
信濃小中学校　佐藤校長：信濃町立信濃小中学校の佐藤です。よろしくお願いいたします。
丸子北小学校　野沢校長：丸子北小学校の野沢です。よろしくお願いします。
清水中学校　武井校長：清水中学校校長の武井利博です。今年で２年目になります。よろしくお願いします。
両小野小学校　吉越養護教諭：両小野小学校の吉越と申します。よろしくお願いいたします。
小山小学校　舞澤教諭：須坂市立小山小学校の舞澤です。よろしくお願いします。
堀金小学校　織田教諭：安曇野市立堀金小学校の教諭をしております織田裕二と申します。よろしくお願いいたします。
北御牧小学校　大川教諭：東御市立北御牧小学校の教諭、大川雅也と申します。よろしくお願いいたします。
佐久市教育委員会：佐久市の教育長が都合により欠席となっておりますので、代理の小林が出席しております。よろしくお願いいたします。
上田市　酒井教育長：上田市教育委員会教育長の酒井秀樹と申します。よろしくお願いいたします。
松本市教育委員会：松本市教育委員会です。教育長は途中から参加予定です。学校教育課の４名で本日は参加させていただいております。よろしくお願いします。
塩尻市　赤羽教育長：塩尻市教育長の赤羽高志と申します。ふりがなが「たけし」になっておりましたが「たかし」です。よろしくお願いします。
箕輪町教育委員会：箕輪町教育委員会、教育長の小林が別件で欠席となりますので、学校教育課職員の野竹が代理で出席させていただきます。よろしくお願いいたします。
小川村教育委員会：小川村教育委員会、教育長の代理で教育次長の清水と申します。教育長は第2部から出席予定です。よろしくお願いいたします。
喬木村　丸山教育長：喬木村教育長の丸山貢弘です。本日は教育委員会の長坂も同席いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：自己紹介いただき、ありがとうございました。今回も多くの方にご参加いただいております。お一人ずつ自己紹介いただきたところですが、出席者名簿の共有で代えさせていただきます。また、事前に配布した名簿にふりがなの誤りがあった点について、お詫び申し上げます。あらためて修正した名簿を共有いたします。

3. 事務局より

司会：では、議事を進めさせていただきます。まず、事務局から県の方向性や現状についてご説明させていただきますが、その前に、本会議ではチャット機能を活用しながら説明や協議を進めてまいりたいと思います。書き込まれた内容すべてに触れることは難しいかもしれませんが、可能な限り多くの方にご発言いただければと思います。

簡単に、Zoom のチャットの使い方をご説明します。画面下部に「チャット」というボタンがありますので、それをクリックしていただき、「メッセージ入力欄」に記入後、紙飛行機のアイコンを押して送信してください。では、練習として 1 つ書き込んでみましょう。GIGA スクール構想を進める中で、「大変だったこと」や「うまくいったこと」などを短く入力してみてください。(チャットの書き込みを見ながら)「遠隔授業にチャレンジ」などですね。櫻田さん、これは今後進めていく中でも注目すべきテーマですね。

櫻田指導主事：そうですね。これからも頑張っていきたいと思います。

司会：「現場との意識の違い」なども教育長からの貴重なコメントですね。今日の会議がそうした意識をつなげる場になればと思っています。他にも「チャットの活用」などのコメントもいただいています。会議中は情報が多くなりますが、ぜひチャットも活用しながら進めていきたいと思います。「ネットワークの改善」や「DX 推進」なども、今日の話題と関連する重要なテーマです。このように、気軽にコメントをお寄せください。皆さんのご意見を多く取り入れながら、長野県の GIGA スクール構想を進めてまいりたいと考えております。会議中、私の話の途中でも構いませんので、ぜひチャットをご活用ください。

・長野県 ICT 教育推進センター長　挨拶

司会：説明の方に入っていきたいと思います。まずは、長野県 ICT 教育センター長である島田先生から、ご挨拶も含めてセンターについての紹介をいただきたいと思います。

島田センター長：皆さんこんにちは。信州大学の島田と申します。長野県の ICT 教育推進センター長も務めさせていただいています。簡単に申し上げますと、いろんな立場の方が集まって活動しています。私は大学で研究と教育をしておりまして、専門は心理学です。そのほかにも大学の教員、学校現場の先生、教育委員会の方、行政の方など、さまざまな方が関わっています。以前は、私が前に立って「これをやりましょう」と皆さんに呼びかけるような進め方をしていましたが、それでは「現場に丸投げでは？」という雰囲気にもなってしまうことがありました。そうではなくて、この短い時間の中で、さまざまな疑問を解決しながら、みんなで一緒に取り組んでいこうという雰囲気を作りたいと思っています。実際に問題解決にもつながればという思いで、県教委の方とも相談しながらこの会を進めています。せっかくの機会ですので、今回はチャットも活用しています。意見や質問をどんどん書き込んでいただいて、問題解決の場として活用していただければと思います。ということで、まずはセンターのご紹介でした。

司会：ありがとうございました。とても柔らかい雰囲気で始めていただいて、ほっとしております。お話にもありましたように、この県内すべての市町村が参加する GIGA スクール会議では、県全体で方向性を共有し、意見交換をしながら進めていきたいと考えております。

・令和７年度　長野県 ICT 教育推進センターのビジョン［五味・櫻田］

櫻田指導主事：少しよろしいでしょうか？ 今、「方向性」という言葉が出ましたので、せっかくですから、このセンターの方向性やビジョンを皆さんに紹介したらよいのではと思いますが、いかがでしょうか？

司会：いいですね。それでは、提案をお持ちのの櫻田指導主事の方からご紹介いただいてよろしいでしょうか？

櫻田指導主事：そうなるのでは…と思っていましたので、準備してあります。画面を映せますか？はい、ありがとうございます。学びの改革支援課の櫻田です。よろしくお願いいたします。私の方から、長野県 ICT 教育推進センターの今年度のビジョンについて紹介させていただきます。ビジョンは２ページ構成になっていまして、並べると全体が見える形ですが、見えづらいので、少し拡大しながら見ていきたいと思います。これが１ページ目です。右側に、雲のイラストが３つほどありますが、そこにビジョンが記載されています。ちなみに、ICT の「効果的な活用」とよく言われますが、五味指導主事、「効果的な活用」とは、どんな活用を指すのでしょうか？

司会：子供たちの資質・能力の育成に寄与する活用であり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につながる活用を、「効果的」と呼んで進めている…ということでしょうか？

櫻田指導主事：回答ありがとうございます。要するに、子供たちの力を伸ばすために ICT が使われているか、そして新しい学びが実現できているか、という観点が重要です。そうした使い方を目指して、県としても取り組んでいます。これまで、ICT 教育推進センターでは毎年目標を立ててきました。たとえば「クラウドによる同時共同編集ができる」「問題発見・解決の過程でクラウドを活用できる」といった具体的な目標を掲げてきました。ただ、実際の現場を見ると、学校ごとの差、市町村ごとの差が見えてきています。うまくいっているところもあれば、そうでないところもある。これは当然のことで、さまざまな背景をもつ市町村や学校がありますので、それぞれに応じた課題や支援が必要だと考えています。そこで県教育委員会としては、それぞれの教育委員会や学校の実態に合わせた支援を行っていく方針です。そして、県だけが支援するのではなく、「共創するチーム」というキャッチフレーズのもとに、学校、市町村教育委員会、県教育委員会が一体となり、タッグを組んで学びの環境をつくりあげていきたいという思いを、このビジョンに込めました。次のページですが、先ほどの２枚続きでいうと下のページになります。こちらには、より土台になる部分をイメージしてまとめてきました。いちばん下の「学習」のところですが、ここには例えば先ほどから話題になっている端末の更新や、ネットワークの整備といった項目が含まれています。このあたり、五味指導主事、いかが

でしょうか？

司会：ちょうどこの間、全国学力・学習状況調査でCBTは話題になりましたね。

櫻田指導主事：CBTについてもこのビジョンの中で今後の流れが示されていますが、ついこの間も全国でCBTの調査が行われ、ネットワークの問題でうまくいかなかった事例がいくつか発表されていました。ただ、現時点では長野県内でそのような大規模な問題、たとえば学校全体や市町村単位でのトラブルは聞いておりません。これも、市町村教育委員会の担当の皆様がネットワークのアセスメントや整備にご尽力いただいた成果だと受け止めています。
また、最初に話題に出た端末の更新についても、今年度はかなり多くの台数が予定されていますので、これについては後ほど担当の方からご説明いただければと思っています。
　そして「デジタル学習基盤」とは何かという点については、本日、佐藤先生のお話の中にも出てくる予定ですので、楽しみにしていただければと思います。デジタル学習基盤、つまり学びの環境ですね。これは最も土台となる部分であり、学校の先生方が頑張ってもなかなかどうにもならない領域だと思います。したがって、ここは市町村教育委員会の皆様に整備を進めていただきたいところです。
　その上に乗ってくるのが「情報活用能力」で、これは子供たちが学ぶうえでの基盤的な資質・能力になります。ここについては、学校と教育委員会が連携して育成を進めていけたらと考えています。こうした基盤の上に情報活用能力が育ってくることで、新しい学び方が実現するのではないかと考えています。この部分は、むしろ学校の先生方にぜひ頑張っていただきたい領域だと思います。先ほども「タッグを組んで」という話がありましたが、学校は学校、先生は先生でやるべきことがあります。それぞれが役割を果たし、すべてが一体となったときに、よりよい学びの姿が実現するのではないかと感じています。以上で、私からのビジョンの説明は終わりです。

司会：ありがとうございます。このように、センタービジョンを掲げて進めております。ビジョンの話の中でも出てきましたが、やはり「端末の更新」は皆さんが気になっている部分ではないかと思います。チャットでも「今年度が最も多い更新年なんですね」といった書き込みがありましたので、端末更新について少し説明を加えていきたいと思います。伊藤さん、お願いできますでしょうか。

・令和７、８年度　端末の共同調達について［伊藤］

教育政策課　伊藤主事：政策課の伊藤と申します。まず、令和 6 年度の端末調達についてですが、約9,000台をすべて、今年度の3月までに無事調達し、活用を開始しております。次に、スライドの真ん中あたり、少し左側になりますが、今年度の更新台数は9万7,500台となっています。昨年度までに仕様の検討や調達業者の決定を終えまして、4月から各市町村で契約や交付申

請の手続きを進めていただいているところです。続いて、令和 8 年度、つまり来年度分の共同調達スケジュールについてご説明します。今年度 6 月頃から仕様検討を開始し、11 月頃までに仕様を決定。そこから調達業者を決定していくという流れになります。以上となります。

司会 : ありがとうございました。今、チャットの方でも島田センター長からコメントをいただいておりますが、「こんなことがわからない」「ここが疑問だ」ということがありましたら、ぜひ遠慮なく書き込んでください。会議の中で扱っていきたいと思っていますので、ご協力よろしくお願いします。伊藤さん、令和 7 年度分に関してですが、令和 8 年度に向けた準備についてはこの後もう少し詳しくご説明いただけるという理解でよろしいですか？

教育政策課　伊藤主事 : はい、そうですね。令和 8 年度の詳細や令和 7 年度の交付申請に関する内容については、後半（第 2 部）で改めてご説明させていただきます。

司会 : 私も現場で業務を見ておりますが、チームワークで大量の処理を着実に進めており、市町村の皆様にも熱心に計画を作成・提出していただいております。今回の端末更新を契機として、長野県全体としてさらに一歩前進できればと考えております。

・学校の ICT 環境整備 3 か年計画（2025～2027 年度）について［井出］
・デジタル活用推進事業債（デジタル債）について［井出］

司会 : 現在、補助金も利用しながら端末の更新を進めているところです。国からの補助金はそれ以外にも出ておりまして、「学校の ICT 環境整備 3 か年計画」というものが公表されています。今回は、校務用のディスプレイなども整備対象になっていたりします。いろいろな制度や補助金があって少し複雑だなと正直感じることもあります。このあと実践発表で校務の DX についてご紹介いただく予定ですので、その前にこの環境整備 3 か年計画について、事務局の井出係長から説明をお願いできればと思います。

教育政策課　井出係長 : 教育政策課の井出と申します。よろしくお願いします。次のページをお願いいたします。先ほど伊藤から 1 人 1 台端末の補助金について説明がありましたが、国ではこの補助金以外にも、地方交付税等による支援がございます。そうした中で、2025 年度から 2027 年度にかけての「学校の ICT 環境整備 3 か年計画」が公表されておりますので、こちらについてご紹介させていただきます。この計画は、国がどのような ICT 整備が必要かを示し、それに対応する地方交付税や地方債といった地方財政措置の考え方を示したものです。内容としては、ネットワークや端末など、これまでと同様のものもありますが、今回の特徴として「業務用ディスプレイ」の導入が新たに位置付けられています。資料の中央付近に記載されていますが、例えば、教員が校務で使用するパソコンの画面が小さいといった際に外付けディスプレイを使うことが多く、こうしたニーズに応える形での整備が新たに含まれています。この支援は個別の補助金で

はなく地方交付税による措置となりますので、自治体側で必要な環境整備としてご理解・ご承知いただければと思います。

また、資料では文字が小さく恐縮ですが、星印のついている項目については「デジタル活用推進事業債」という新たな地方債が創設されています。これは地方債の発行によって ICT 環境を整備することができる制度で、今年度から 5 年間の時限措置として始まっております。対象としては、教員用端末や電子黒板等の大型提示装置などが挙げられており、これらの整備にも活用できるようになっています。市町村の皆様におかれましては、財政部局と予算要求や調整をされる際に、国の補助金の情報だけでなく、このような地方財政措置の情報もぜひご確認いただき、必要な事業費の確保に努めていただければと思います。この「デジタル活用推進事業債」については新しい制度になりますので、詳細については第 2 部で改めてご説明させていただきます。私からは以上です。

司会:ありがとうございました。皆さん、チャットでも積極的にご発言いただいておりますので、どうぞ気軽にご質問ください。少し対談形式のような雰囲気で進めていけたらと思っています。チャットでのご意見があると会の進行もしやすくなりますので、ぜひご協力をお願いします。お気付きの方もいらっしゃると思いますが、ここまではある程度の台本がある形で進めておりますが、次の協議は、台本のなしで皆様と意見交換してまいります。ぜひチャットにどんどん入力していただき、本質に迫るような会議にできればと思っております。

4. 実践発表

・発表者：信州大学教育学部　（信濃町立信濃小中学校　勤務）伊藤　真紀　教諭

「子供と一緒に過ごす時間を生み出す校務 DX(デュアルディスプレイの活用等)」

司会：続きまして、実践発表に移りたいと思います。発表者は、信濃町立信濃小中学校の伊藤真紀先生です。教師の働き方と学び方を変える～校務 DX と授業改善～というテーマで、本日の会にぴったりの発表をしていただけます。研究の方も、信州大学と信濃町が連携しながら進めてきたものということですので、そのあたりのお話も聞けるのではないかと思います。では、伊藤先生、ご準備よろしいでしょうか？

信濃小中学校　伊藤教諭：よろしくお願いします。では、画面共有をさせていただきます。

皆さん、こんにちは。私は信濃町立信濃小中学校で研究主任を務めております伊藤真紀と申します。本日は、こちらのテーマに沿って、信濃小中学校での事例をご紹介いたします。このような機会をいただき、ありがとうございます。

校務 DX に関しては、まだまだ発展途上で、できることはたくさんあるのではないかと日々考えております。今日は、その取り組みの一端をお話しさせていただきますので、皆様と意見交換しながら学ばせていただけたら幸いです。まず、本日の発表の流れをご説明いたします。はじめに、校務 DX に至るまでの経緯についてお話しします。

GIGA スクール構想により、信濃小中学校にも情報端末が整備されました。当初は「どうにか授業で活用を」と考え、職員研修を重ねたり、ICT 通信を何度も発行したりして、授業での端末活用を促してきました。しかし、なかなか活用が進まないという現実がありました。その原因として、教師が操作に不慣れで授業での活用イメージがもてないという点が大きかったように思います。そうした課題を受けて、校長先生が「校務でも子供たちが授業で使うツールを使っていこう」と決断してくださいました。それまでは別の掲示板ツールや校務用サーバーを使っていましたが、それを汎用クラウドツールである Google Chat や Google ドライブに切り替えることとなりました。

学校のサーバーでしか開けなかった資料をクラウド上に保存し、どこからでもアクセスできるようになったことで、校務での活用も進み、自然と操作に慣れ、結果的に授業での活用にもつながっていきました。最初から「DX をしよう」と思って始めたのではなく、汎用クラウドツールを校務で活用していたところから、自然と授業でも使われるようになり、結果として校務 DX のような形に発展していったのだと感じています。それが、授業の変化にもつながっているのではないかと考えています。校務での活用としては、Google Chat は業務連絡ツールとして定着しつつあります。連絡したいことを忘れないうちに、迅速に、いつでもどこでも連絡できる点が大きなメリットで、職員会での連絡事項が大幅に削減されました。また、校務でチャットを頻繁に使うようになると、授業の中でも子供たちがチャットを活用する流れが自然と生まれてきました。こちらは、個別懇談の予定調整をスプレッドシートで共有する取り組みです。これが、最初に行った校務 DX につながる事例だったと思っています。これまでは紙でやりとりしていたものを、クラウド上で一括管理するという、とてもシンプルなものですが、教師にとっては「共同編集」や「他者が参照できる」ことのイメージがしやすく、デジタルの便利さを実感するきっかけとなりました。ICT 活用というと難しく考えがちですが、このように誰でも使える身近な業務から始めて良さを実感することが、その後の広がりにつながるのではないかと感じています。

次は、少し視点が異なる事例です。これは校務から授業への流れではなく、授業での活用から校務にも応用が利くのではないかと考えたものです。右側のスライドは、子供たちの授業の進捗や提出物のスライドを一覧化したもので、教師が子供の学びを見取りやすくしたものです。左側は、年間の教育計画を一覧化したもので、必要な情報を誰でもすぐに見られるようになりました。こうした授業と校務の行き来が、教師の意識変容につながっていると感じています。

さらに、生成 AI も校務で取り入れるようになりました。操作に関する研修も昨年度実施しましたが、「便利だから使ってみましょう」という声かけだけでは、なかなか活用にはつながりませんでした。そこで、いつも行っている校務の中に生成 AI を組み込むようにしました。これは校長先生のご提案で、どの教師も経験する中で「これは使えるかも」と実感をもてるような状況を意図的に作りました。このように、経験を重ねる中で教師自身がツールの価値を実感し、定着していくことが、校務での DX 推進につながるのではないかと考えています。この生成 AI の活用についてですが、例えばお便り以外にも、総合的な学習の時間のカリキュラム作成についてアドバイスをもらい、実際にカリキュラムを作ってみた例があります。さらに、こちらの一番上の事

例は、数学科の先生が練習問題をAIに作ってもらったというものです。また、前年度、信濃小中学校ではタクシー利用の児童が多く、そのタクシーに関するシステムを以前の先生が作成していたのですが、その先生が異動されたことで、マクロが破損したままになっていました。それに対して、AI とやり取りすることで、すぐに解決できたという事例もあります。他にも、授業導入時の工夫についてアドバイスをもらった事例もあり、生成AIの活用が広がってきています。まだ、中学校や高校の授業での活用には繋がっていない状況ですが、このように教師が生成 AI に慣れることで、授業での活用に広げていけたらと考えています。

続いて、サブディスプレイの活用事例についてです。本校では昨年度、信州大学様の教員研修高度化支援事業に参加させていただき、教師一人ひとりにサブディスプレイを整備していただきました。このように職員室内での活用が進んでいます。主な活用例としては、サブディスプレイで情報を参照しながら資料を作成することが多いです。他にも、保健の先生の事例では、Web上で感染症の情報をモニタリングしながら、右側のメインモニターでは別の仕事をするという使い方がありました。また、信濃小中学校では来客対応時に、少人数での対応が必要な際に大型テレビを用意するのではなく、サブディスプレイを使って手元で操作しながら案内する活用方法も見られました。教師がサブディスプレイを使っているのを見て、子供たちからも「使ってみたい」という声が上がり、授業での活用も始まりました。子供たちも効率的に学ぶことで、生み出された時間が学習の質の深まりに繋がっていると感じています。サブディスプレイの活用に関しては、拡張ディスプレイとして複数の資料を同時に開いて作業できるため、狭いウィンドウを切り替えるより快適で、使ってみるとその便利さが実感できます。授業準備では複数の情報を同時に使うことが多いため、画面が広くなるだけで作業効率が上がり、サブディスプレイがある前提で作業するようになったという先生方の声があります。時間短縮だけでなく、個別の支援計画を作る際や支援会議において、画面上で保護者に確認してもらいながらその場で修正を行うことで、後から修正する必要がなくなり、保護者の納得感や安心感に繋がったという「見える化」の効果もあります。また、先ほどの保健の先生の事例では、サブディスプレイで地域の感染症対策に関する情報を常時提示し、近隣で欠席者が増えたり出席停止が増えたりした場合にも、リアルタイムで状況を確認し、学校の実態に応じた迅速な判断と報告が可能になったとのことです。最大のメリットは、いちいちタブを開く必要がないため、ストレスが軽減されるという先生方の意見もあります。

信濃小中学校では、校内研修や授業研究においてもDXを進めています。例えば、先生たちの授業公開に使用する学習指導案やツールなどは、クラウドで共有されています。完成品を共有するのではなく、途中経過の段階で共有し、意見をもらえるようになっています。

定期的に実施する校内研修に加え、日常の学びも共有しています。これは先月の投稿内容ですが、算数の授業で具体的な操作を活用して進めた様子を紹介する投稿に対して、他の先生たちが応答を繰り返すなど、同僚の授業実践を知るためのツールとしてチャットが大きく活用されています。校内研修の活用事例の2つ目としては、公開授業の中で、協議会と同様に学んだことをその場で共有する取り組みも行っています。授業を見る視点を学ぶ上で非常に有効です。

最後にまとめです。汎用クラウドツールの活用により、先生たちの働く時間や場所が変わったと実感しています。これは自分自身だけでなく、学校にいられない状況のある先生たちにも柔軟な働き方が可能になるのではないかと感じています。また、生成 AI の活用によって時間短縮に加え、授業の質の向上にも繋がっているという先生方の感想もいただいています。これらの事例を通じて、慣れることで授業での活用のイメージが広がることを実感しています。今後は生成 AI の活用もさらに授業の中で広げていけたらと思います。また、サブディスプレイの活用により、作業の効率化だけでなく、関係性の向上や迅速な対応が可能になっていることも実感しています。こうした汎用クラウドツールの活用が「見える化」を進め、クラウド上での学びや対面でのコミュニケーションが活性化し、授業改善への意欲が高まり、実践につながる。そういった状況が、今の小中学校で生まれています。ICT はあくまでも「手段」にすぎませんが、授業改善を通じて、教師の意識や学校文化そのものが変わり始めているのではないかと強く実感しています。以上で、私からの報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

司会：伊藤先生、ありがとうございました。ご発表いただいている間に、チャットの方では「こんなことを聞いてみたい」というような質問が寄せられています。伊藤先生、これは計画にはなかったのですが、いくつかお聞きしてもよろしいでしょうか？島田先生、チャットの書き込みの方どのような様子でしょうか。

島田センター長：チャットで質問っぽいのがあったら全部スクリーンショットしてありますので、ちょっと順番にいってもいいですか？まず、北御牧小学校の大川先生からです。「チャットを皆さんが見るようになるために、私は結局対面で声をかけているのですが…」という点について、大川先生、少しお話しいただけますか？

北御牧小学校　大川教諭：チャットを見てもらうために、私は「こういう情報を発信しています、見てください」と声かけをしていますが、伊藤先生の学校では、そうしなくてもチャットが自然に動いているように思います。どのように運用されているのでしょうか？

信濃小中学校　伊藤教諭：チャットに一本化したことが大きなきっかけになったと思います。他の掲示板ツールなどは使わないようにして、「チャットだけにする」と当時の校長先生が決断してくださいました。ツールが複数あると両方が中途半端になってしまうのですが、思い切ってチャット一本に絞ったことで、うまくいくようになったと思います。

北御牧小学校　大川教諭：ありがとうございます。やはり、覚悟が大事ですよね。本当にそう思います。私のような一教員にはなかなか判断できないことなので、やはり管理職の先生方や教育委員会の後押しが非常に大事だと感じています。ある職場では、「Slack」を導入した際に、「念のためメールでも送っておく」は禁止、というルールを作ったそうです。結局、従来のやり方と

新しいやり方が並行して存在してしまうと、人は元のやり方に戻ってしまうのですよね。だから、新しい方法で行くと決めたら、覚悟をもって一本化することが大事ではないかと感じます。それって、反転授業にも似ていますよね。例えば「ビデオを見てきてね」と言っても、みんな見てこない。そうなると授業の最初に「念のためビデオの内容を説明すると…」となってしまい、結局誰もビデオを見なくなる、という話もあります。なので、やはり上の人が覚悟をもって決断することが大事ですよね。ありがとうございます。

島田センター長：次の質問です。県教委の櫻田さん、「チャットが途中で停滞したことはありませんか？」ということですが、櫻田さん、いかがですか？

櫻田指導主事：僕もチャットスペースをたくさん作って、どんどんグループが増えていくんですけど、やはり盛り上がるグループと、書き込みがほとんどないグループとが出てきます。最初は盛り上がるけど、慣れてきた頃に誰も書かなくなってしまう、というようなことはありませんでしたか？連絡ツールというよりも、校内研修や日常的な実践の共有に関する話ですね？そういうことはあります。先生たちはやはり忙しいので、投稿がなかなかできない状況になることもあります。そういう時、うちの校長先生は率先していろいろな授業を見に行き、自ら投稿してくださるのです。それがとても大きな力になっていて、先生同士で直接話す機会も自然と増えています。

島田センター長：ありがとうございます。チャットを見ていたら、安曇野の織田先生が「Google Chrome を立ち上げた時に、チャットが自動で立ち上がるように設定したら、みんなよく見るようになった」という方法を紹介してくれていました。これ、僕もおすすめだと思うので、ぜひ皆さん参考にしていただければと思います。ありがとうございました。続きまして、長野市の酒井さん、「サブディスプレイはモバイルディスプレイがいいですか？」という話題について、少しお話しいただいてもよろしいでしょうか？…いらっしゃらないかな？ 僕が代わりに聞きます。質問は「サブディスプレイはモバイルディスプレイがいいですか？ それとも固定のディスプレイがいいですか？」という内容です。ご自身の実感からお話しいただけると助かります。

信濃小中学校　伊藤教諭：うちは職員が多く、スペースの問題もあるので、モバイルディスプレイだと持ち運びができて便利です。自分専用のサブディスプレイを教室に持って行って仕事することもできますので、私はモバイルディスプレイの方が活用しやすいと感じています。ちなみに、家では固定のディスプレイを使っています。

島田センター長：ありがとうございます。ほかに何か意見のある方はいらっしゃいますか？僕もモバイルの方がいいと思っています。やっぱり運べるというのは大きいですよね。授業の際にも持っていかれるのですか？

信濃小中学校　伊藤教諭：教室に持って行って、そこで作業されている先生もいらっしゃいます。

島田センター長：なるほど。僕も授業に持ち込んで、自分のパソコンとサブディスプレイを使って、別の画面を表示するようなことをやっています。持ち運べるという点は非常に大きなメリットですよね。最近は価格もかなり下がってきたので、そう考えるとモバイルディスプレイは有力な選択肢だと思います。ありがとうございます。次は、「サブディスプレイを全職員に配置した場合、机上に常設することは可能でしょうか？」というご質問です。質問は「サブディスプレイを全職員に配置した場合、机の上に常設できるものなのでしょうか？ また、電源コードはどのように配置していますか？」ということです。これは結構大きなポイントですよね。では、伊藤先生、お願いします。

信濃小中学校　伊藤教諭：サブディスプレイを置くためには、まず不要なものを思い切って処分しました。本校ではペーパーレス化が進んでいることもあり、本当に必要なものだけを机上に置くようにしています。セキュリティの観点からも、机の上に物を多く置かない方が良いと考えていますので、サブディスプレイを設置している先生の机は、比較的整理されている印象があります。実際、多くの先生が設置されています。電源コードについては、最初はコードが足りないという声もありましたので、事務の先生にご協力いただき、延長コードを購入するなどして工夫して対応しています。

島田センター長：電源は、サブディスプレイを Type-C ケーブル 1 本で接続する形ですか？

信濃小中学校　伊藤教諭：はい、端末とディスプレイを直接つないで、アダプターを介さずに使うことも可能です。ただし、その場合はバッテリーの消耗がかなり早くなります。

島田センター長：そうですよね。パソコンの電源がしっかりしていることが前提になりますけど、それが整っていれば、Type-C ケーブル 1 本でディスプレイに接続できるという点では、コードの煩わしさはそこまでではないかもしれませんね。あとは、パソコン自体がその電源供給に耐えられるかという問題もあるかもしれません。資料を見させていただくと、結構ディスプレイを台の上に置いたりしている例があると思うのですが、そのあたりの先生たちの工夫みたいなものは何かありますか？

信濃小中学校　伊藤教諭：実は最初はディスプレイを置くための台などはなかったのですけれども、技術科の先生が「目線の移動が楽になるように」と工夫してくださって、台を作ってくれたのです。お願いすれば、快く作ってくださる可能性もあると思います。

島田センター長：ありがとうございます。もう１つだけ、ディスプレイのサイズは何インチを使っていますか？

信濃小中学校　伊藤教諭：すみません、後で確認させていただけますか？

島田センター長：はい、失礼しました。それでは続いて、清内路小学校齋藤校長先生、いらっしゃいますか？

清内路小学校　齋藤校長：連絡の場面における共同編集の活用ですが、保護者の方に入力していただいたものを配信したということでしょうか？

信濃小中学校　伊藤教諭：そこまでではなくて、保護者通知を作成する際に、先生たちが共同編集で作成したという事例になります。

清内路小学校　齋藤校長：分かりました。ありがとうございます。

島田センター長：ありがとうございます。続いて、清水中学校の武井校長先生。児童・生徒に関する内容ですが、直接お話しいただいてもよろしいでしょうか？

清水中学校　武井校長：清水中学校の武井です。生成 AI を授業で使うという話がありましたが、児童・生徒に使わせるにあたって、どのような指導をしてから使用させるのか、という点が一点。もう一点は、生成 AI を活用する授業をどのような場面で想定しているのか教えていただけますでしょうか？

信濃小中学校　伊藤教諭：これは私が答えても大丈夫ですよね？ 今のところ、何か具体的に始めているというわけではないです。教職員の活用は広がっていますが、授業での活用については、これから先生たちと一緒に考えていきたいというところです。文科省のガイドラインに準拠しながら、リーディング DX スクールやパイロット校の事例も参考に進めていければと考えています。

島田センター長：生成 AI には年齢制限もありますよね。何歳以上で使用できるなど、詳しい方はいらっしゃいますか？ 櫻田さん、お話しいただけますか？

櫻田指導主事：ちょうどその話題が来ると思って準備していました。先生のおっしゃるとおり、中学生の途中から使えるようになるツールが多いですが、保護者の同意が必要だったり、ツール

ごとに異なる制限があります。正直なところ、学校の先生方にも細かな情報がまだ十分に伝わっていない部分がありますし、現状は手探りで進めているというのが実情です。文科省のガイドラインに沿いながら、国としてもパイロット校のように試行錯誤している段階です。私たちもアンテナを高くして、こうした会の中でよい事例が出てきたら紹介し、情報を共有しながら、安全で効果的な使い方を模索していきたいと考えています。いかがでしょうか？ 武井先生、それでよろしいですか？ 少し曖昧な回答になってしまいましたが…。

清水中学校　武井校長：文科省のガイドラインをしっかり読まなければならないなと感じました。ありがとうございます。

島田センター長：どなたか、他に情報提供したい方はいらっしゃいますか？ この話題は、これからだんだん事例が出てくると思います。本やネットでも情報は出てくるとは思うのですが、今のところはまだ手探り状態ですし、僕らが扱う範囲についても「どこまで可能か」という点で試行錯誤の連続です。今後、事例が出ても、もしかしたら 2 年後には「もうそんなやり方は古いよ」と言われるような、技術の変化が激しい世界かもしれませんね。私も英語の翻訳などで AI を使っているのですが、2 年くらい前は結構適当な訳があったり、一文抜かして訳したりして「可愛いな」なんて思っていましたが、そういうのも最近では見かけなくなりました。それだけ AI が進歩しているということですね。もうだいぶいい時間になってきたので、そろそろプログラムを先に進めます。佐藤先生の動画もありますよね。ちなみに、他に質問の取りこぼしなどがあれば、今のうちにお知らせいただければと思います。では、プログラムどおり進めましょうか。

司会：島田先生、そして多くの皆さま、発言をいただきありがとうございました。特に伊藤先生、しっかりした発表に加えて、質問攻めにあいながらも、丁寧に対応いただき、本当にありがとうございました。

・佐藤先生のお話　７分

司会：後半の協議に入りますが、今回は「デジタル学習基盤」をテーマに、さまざまなディスカッションができればと考えております。先ほどの話の続きのようなイメージで、自由にお話を展開していただければと思います。ここで、多くの情報が出ましたので、少し整理の時間を設けたいと思います。信州大学の佐藤准教授から、伊藤先生と共同研究された内容も含めて、動画をいただいておりますので、それを共有いたします。動画をご覧いただきながら、情報を整理していただければと思います。もちろん、動画再生中もチャットへの入力は自由にしていただいて構いません。それでは、共有いたします。

信州大学　佐藤准教授（動画）：信州大学の佐藤と申します。本日は授業があり、出席できず申し訳ありません。私からは、最近の動向を踏まえて「教育の DX」と「情報活用能力の育成」につ

いてお話しさせていただきます。5 分ほどお時間をいただきます。まず、文部科学大臣からの諮問もあり、いくつか論点があります。現在、それらの論点整理が中央教育審議会において議論されています。今回のテーマに関係する部分としては、デジタル学習基盤を前提とした資質・能力のあり方、自己調整学習における子供の学びと教師の指導性の在り方、また、情報活用能力の抜本的な充実に向けた施策、探究的な学びの在り方などが挙げられます。さらに、生成 AI や標準カリキュラムの問題も今後の議論のテーマとなると見込まれています。「デジタル学習基盤」という言葉については、新しいと感じる方もいるかもしれませんが、これは子供たちが学習を進める上での ICT 環境、つまり児童生徒用端末やネットワークなどを指します。このデジタル学習基盤を前提に、資質・能力をどのように捉えるか、すなわち知識・技能や思考力・判断力・表現力等がどうあるべきか、ということが示されていくと考えられています。また、自己調整学習については、個別最適な学びや協働的な学びをなぜ行うのかという問いに対する答えとして、本省のサポートマガジン『みるみる』では、「山を登る」イメージが紹介されています。登り方やペースが人それぞれであり、時には協働し、時には集まる、というイメージが必要であるとされています。非常に参考になる資料ですので、ぜひご覧いただければと思います。

続いて、情報活用能力の抜本的な充実についてです。昨日の教育課程企画特別部会においても議論されていました。主な論点としては、小学校段階では一定の時間を確保して情報教育を行い、総合的な学習の時間との連携のあり方を検討すべきだという提案がされています。中学校段階においても、技術分野における情報教育のあり方について今後検討していく必要があるとされています。現在、小学校では教科ごとに情報を学ぶ形となっていますが、「どこで何を学ぶか」が不明確なため、情報活用能力の育成に支障をきたしているという指摘があります。そのため、一定の時間を確保して内容を明示的に教えるとともに、総合的な学習の時間との連携を図るようなカリキュラムを、次期学習指導要領で構築していく必要があると考えられています。

また、「結果の柔軟化」や「これ以上負担を増やさない」という前提に立ったとき、デジタル学習基盤がどのように有効活用されるかが重要になります。これも特別部会で示された資料に基づいています。例えば、デジタル化によって授業運営が効率化されることで、単元ごとの学習時間を短縮することが可能になるというデータがあります。クラウド化によって、業務時間が約 10 分削減されたという結果もありました。これは 340 人ほどのデータに基づいたもので、デジタルの導入前後で比較した結果、時間の削減効果が確認されています。このような取組により、例えば 8 時間かかっていた単元が 6 時間で完了する、というようなイメージをもつことが重要です。そして、この「教育の DX」は、極めて基本的な前提となっていくと考えられます。例えば、補欠授業などの対応において、先生方がクラウド上で在宅で調整できる仕組みがある学校と、紙ベースで翌日職員室に集まって調整する学校とでは、業務の進め方がまったく異なります。汎用クラウドを活用して時短を実現している学校と、そうでない学校とでは、働き方改革への影響も大きく異なることになります。このような ICT 活用ができなければ、働き方改革は実現しないとも言われています。ただ「早く帰れ」と言われるだけでは、業務が減らなければ早く帰ることはできません。業務を効率化して早く終わらせる方向へシフトしていく必要があります。

また、デジタル学習基盤を先生方が日々の業務で活用していくことで、苦手な先生も実践の中で徐々に克服し、授業で使えるようになっていくはずです。そうした日常的な実践がないと、「このように使いましょう」と一時的な研修で言われても、実際にはうまくいかないものです。苦手なまま使わずに終わってしまう可能性もあります。現時点で教育 DX が進んでいる学校、端末を使って授業を行っている学校、情報活用能力の育成や個別最適な学びが実践されている学校は、公務の DX も同時に進んでいるケースが多いです。ぜひこの点からもご検討いただければと思います。

私からの話は以上です。ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

5. 協議

・協議　「デジタル学習基盤の整備とこれから」　進行：島田センター長

司会：情報提供をいただきました。では、これから協議に入っていきますが、残り 20 分ほどとなっており、最後に本課係長からご挨拶いただく予定ですので、実際には 15 分ほどの協議になるかと思います。進行をお任せしてもよろしいでしょうか？

島田センター長：今、コメントでいくつかご意見が出ていまして、佐藤さんはいらっしゃらないので、櫻田さんにご回答いただければと思います。小山小の舞澤さんが「どの教科として計上すればよいかいつも悩んでいます」とおっしゃっていて、これが結構、現場の悩みなのかなと思うのですが、少しお話しいただけますか？

小山小学校　舞澤教諭：例えば、国語だったらタイピングなどの入力をさせることで、国語のねらいに沿っていれば国語でよいと思うのですが、やっていくうちに「タイピングをもっとやったほうがいいのでは」とか、「ファイルの提出方法を確認しよう」といった活動が多くなってくると、「これを国語に計上していいのか」と悩むことがよくあります。教科ごとに授業時間数は限られていますし、「じゃあ特別活動なのかな」と思ったりもしますが、それもしっくりこない。だから、「情報」という時間があればありがたいなと感じます。はい、そんなところです。

櫻田指導主事：おっしゃるとおりだと思っています。私自身も、これまで質問されても、どう答えればよいのか分からない状況でした。今もそうですが。情報活用能力を身に付けさせるようなトレーニング的な内容、タイピングなども含めて、授業の中だけでは対応しきれないというのが現実です。そのため、学校で工夫して、例えば朝の時間にやってみたり、端末を持ち帰って家庭でやらせてみたりして、なんとか補っている先生たちもいます。でも、子供たちに無理をさせているような状況もあると思います。ですので、本当に時間が確保されるのであれば、それは学習基盤として非常に重要ですし、前向きに受け止めるべきことだと思います。舞澤先生もきっと、子供たちにやらせてあげたいけれど、どうしたらいいか悩んでおられるのではないかと思います。

小山小学校　舞澤教諭：ありがとうございます。

島田センター長：次の指導要領では、そういった点も考慮されるのでしょうかね。でも、それについての検討が今始まったということですよね。つまり、「考慮されるかどうか」という検討が、まさに今始まったという理解でよろしいですかね。

櫻田指導主事：はい。どうなるかは分かりませんが、方向性としてはそういう流れになっているのではないかと思います。ただ、何とも言えないですよね。

島田センター長：何を削るかという議論になれば、きっと揉めることになりますよね。

櫻田指導主事：そうですね。ただ、単純に時間を増やすことはできないので、非常に難しい話になってきます。

島田センター長：今まで増える一方だったカリキュラムを、どう整理するのかという話ですね。ですので、もしかしたら教科の中で扱ってもよいというような形になる可能性はあるかもしれません。今後の動向を見守っていく必要があります。こういう課題があるということは、すでに把握されていると思いますので、何らかの形で位置付けられていくとは思います。運用上、柔軟な扱いができる可能性もありますし、「これで OK です」となるかもしれません。ただ、グレーゾーンでやっていると、後から「それはルール違反だった」と言われてしまう可能性もあるので、慎重に進める必要があります。そういうことって、よくある話ですからね。では、もう一つ。総合センターの北原さん、チャット GPT や Gemini についての話題が出ていましたので、少しお話しいただけますか？

総合教育センター　北原専門主事：ありがとうございます。先ほど話題に上がったので、ガイドラインをざっと確認しました。昨年 12 月に出たガイドラインバージョン 2.0 には、「何歳から使用可能」といった具体的な年齢の記載はありませんでした。「安全性を考慮した適正利用」という形で、教育委員会の方針に基づいて判断することや、AI サービスの利用規約に準じて使用するよう記載されていました。たとえば、ChatGPT や Gemini についても同様です。野沢校長先生のコメントで、「学校でどう取り扱っているか」という話もありましたので、私も改めて「今どうなっているのだろう」と考えていました。櫻田さん、コメントいただけますか？

櫻田指導主事：先生の年齢制限については、サービスによって異なりますし、状況によっても変わるので、一概には言いにくいところです。一般的に、大人向けのサービスでは 13 歳未満は使用できず、13 歳以上であっても保護者の同意が必要な場合がほとんどです。ですので、無難な

対応としては、事前に保護者の同意を得ておくことが望ましいと思います。例えば Google の Gemini について言えば、学校用の Google アカウント、つまり「特別なアカウント」で運用されている場合には、設置者（教育委員会など）が許可していれば 13 歳以上の生徒も利用可能とされているケースがあります。つまり、最終的には設置者や保護者が「ダメ」と言えば使えないということになり、状況によって判断が異なるわけです。では、小学生はどうするのかという話ですが、小学生向けに設計された AI ツールや、教員がその場で指導しながら使う分には問題ないとされているサービスもあります。そういった情報をよく確認した上で、先生方自身が理解しておくこと、また将来的には子供自身が確認できる力を身に付けていくことも重要だと個人的には思っています。以上のような内容でよろしいでしょうか？

島田センター長：ありがとうございます。コメントで丸子北小の野沢さん、ちょっと事例をお話しいただいてもよろしいでしょうか？

丸子北小学校　野沢校長：上田市の方で 4 月当初に、ホームページに載せてもよいかとか、新聞に載せてもよいかとかといった内容の同意書が出されまして、それを紙で出してもらいました。ほぼ全員が OK という形になっていたので、生成 AI も使っていいよということにしました。今、Canva を使っているのですが、子供たちがイメージを言葉で伝えると、それを画像にしてくれるらしく、それを活用して図工か何かの授業で、自分のイメージした画像を作るという活動を行っていました。こんな程度の事例ですが、よろしいでしょうか？

島田センター長：ありがとうございます。多分、こういった事例が今後だんだん出てくるかと思うので、そういう情報をいろいろと交換して、横展開していく、そんなプロセスになると思います。なかなか「規約を全部読んでください」と言われても、普段そんなの読んでいないので、「えっ…」となってしまいますよね。ですから、最初のパイオニアの方には、ある程度その辺をしっかり確認していただいて、それが「これで大丈夫だ」ということで展開していくのは、現実的な流れかなと思います。あと、他には、研究開発校での事例もあったりするようですね。伊藤先生がチャットに載せてくださっているので、時間がなくなってきましたが、もしよかったらチャットの方のリンク先をご覧いただければと思います。ということで、そろそろ時間ですので、よろしいでしょうか。では、県の方にお返しします。

6. 閉会の挨拶［学びの改革支援課　田中義務教育指導係長］

司会：ありがとうございます。先生方、議論ありがとうございました。最後に私から一言書き込ませていただいたのですが、「県を上げて、自治体を上げて、学校を上げていく」その際に、本当にいろいろな方が参加される会議は非常に大事だなと改めて感じています。教育長先生方に参加いただくだけでなく、メンバーの方も、たとえば小学校の吉越先生、デジタルサイネージを活用して、保健室からさまざまな情報発信をされているという取り組みもあるそうです。次回以

降、ぜひ情報共有いただけたらと思っています。今年度も、みんなで一緒に進めていけたらと思っております。では、残り 5 分となりましたので、最後に県教育委員会事務局 学びの改革支援課 義務教育指導係長の田中よりご挨拶申し上げます。

学びの改革支援課　田中義務教育指導係長：皆さん、本日はご参加ありがとうございました。第 1 部の会議、いかがだったでしょうか？ 私は非常に多くの刺激をいただけた会議だったと感じています。今日の事例発表の中で、伊藤先生から「慣れることで活用のイメージが広がる」といったご発言があったかと思います。「どのように使えばいいのか」「まだよくわからない」といった声もあるかもしれませんが、まずは我々教職員自身がその良さや便利さを体感することが、子供たちへの広がりにつながっていくのではないかと感じました。また、今日の会議体ではチャットも非常に活発に活用していただき、多くの情報が共有されていたかと思います。そういった情報をぜひ各学校・各現場で広めていただき、共有していただけたらと思います。本日の第 1 部の会議、本当にありがとうございました。

司会：ありがとうございました。では最後に連絡です。今、チャットの方にアンケートを送らせていただきました。今年度からは教育長先生方にもご参加いただく会議となっておりますので、どういう形の会議運営が一番良いかを探りながら進めている段階です。ぜひ、退出前にアンケートのリンクをクリックしてフォームを開き、本協議会についてのご助言やご意見、課題などをご記入いただければ、8 月に予定している第 2 回に反映できるかと思っております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。以上で本日の第 1 部の議題はすべて終了となります。ありがとうございました。

【第２部　長野県 GIGA スクール市町村代表者会】

日　時：　令和７年　５月１３日（火）　オンライン開催　15：15～16：15
参加者：　議事録末尾に掲載
内　容：　以下のとおり

司会［学びの改革支援課兼教育政策課：五味指導主事］

１　挨拶
井出係長：教育政策課教育ＤＸ推進係長の井出です。第２部長野県ＧＩＧＡスクール市町村代表者会では、全市町村による情報交換を行い、ＩＣＴ整備や利活用などに関する課題や対応を共有していければと思います。今年度の県教委の体制について簡単に紹介しますと、当係はこの４月からできた新しい係です。ＩＣＴの利活用と整備の担当課を分けまして、利活用は、これまでどおり学びの改革支援課、整備を教育政策課の当係で担当します。よろしくお願いします。

２　端末の共同調達について
櫻田指導主事：令和６年度分の共同調達に関しましては、各市町村への納品が昨年度内に完了しております。令和７年度分の共同調達に関しましては、今年３月までに事業者選定まで終えて、現在は各市町村の契約段階になっております。準備が整った市町村から納品が始まり、今年度内には完了する見通しです。ここまでのワーキンググループはクラウドを活用してチャットでやり取りをしたり、データの受け渡し等を行ったりすることで、スムーズに進めることができております。令和８年度も同様に進めてまいります。　令和８年度のスケジュールについては続けて伊藤の方から説明いたします。

伊藤主事：教育政策課教育 DX 推進係の伊藤です。令和８年度の共同調達については、今年度（令和７年度）に調達業者を決めていきます。10、11 月までに仕様を決定し、公告を進めていきます。ワーキンググループに向けて、令和８年度の共同調達に参加される予定の皆さまには、端末の希望機種や台数、納入希望日などの確認を進めていただければと思います。また、各種計画の策定についてですが、調達年度にかかわらず、全市町村対象で補助要件として各種計画の策定、公表が必要となります。ＨＰでまだ公表を行っていない皆さまは、早急に公表をお願いします。また、指導者用端末の整備とフィルタリングの整備も補助要件となっておりますので、整備を進めていただくようお願いします。
続いて、令和７年度に共同調達を予定している皆さまのスケジュールになります。交付申請の通知を発出させていただいておりますが、契約予定１か月前までに交付申請をお願いします。

リースの場合については、交付申請の前にリース業者を決定する必要がありますのでご注意ください。契約を早急に行いたい場合は、事前着手届の提出をお願いします。
続いて、公立学校情報機器活用支援体制整備費補助金（ＧＩＧＡスクール構想支援体制整備事業）の説明になります。こちらは昨年度に引き続き、ネットワークアセスメントやネットワークの改善にかかる費用や、次世代校務 DX 環境の整備、セキュリティポリシー策定など学校ＤＸにかかる費用が補助対象となります。文科省が示すＫＰＩで「必要なネットワーク速度の確保」等は、今年度中に全学校で達成する目標となっておりますので、ぜひ補助金を活用して整備を進めていただければと思います。今年度も追加希望調査が来ておりますので、希望される方は申請をお願いします。

３　学校のＩＣＴ環境整備３か年計画について

五味指導主事： 学校 ICT 環境整備に関する３か年計画についてご説明します。本計画は、これまでの環境整備計画が延長され、新たに３年間の計画として示されたものです。学習者用端末の更新に対する３分の２の補助とは別に、地方財政措置が講じられています。対象となるのは、端末やネットワークなどの ICT 環境整備にとどまらず、第１部でも話題に上がった業務用ディスプレイなども含まれています。各自治体におかれましては、本計画の趣旨をご理解いただき、積極的なご検討をお願いいたします。

井出係長： 地方財政措置として、地方交付税の算定に入っているものと、新たにデジタル活用推進債として地方債が認められた制度があります。本日、事例発表いただいた業務用ディスプレイは、地方交付税の算定に入っています。ちなみに、県立高校のＩＣＴ整備では、全校の教員の業務用ディスプレイを整備する予算を確保し、今年度整備予定です。続いて、デジタル債です。国の資料では、「元利償還金に対する交付税措置があるデジタル債の対象」として、「指導者用端末」と「電子黒板等の大型提示装置」に★が付いています。令和７年度から令和 11 年度までの５年間の措置として、デジタル活用推進事業債が創設されました。こちらは、教育分野も含めまして、デジタル技術を活用した行政運営の効率化等に向けた制度です。所管は、総務省になります。地方債の充当率 90%、償還年限５年、交付税措置率 50%となっています。デジタル事業債の活用イメージは、仮に事業費を 100 とした場合、10%は、一般財源、残り 90%はデジタル債を発行できるということです。このデジタル債 90%は、地方債発行で、5 年以内に返していく必要がありますが、その際、50%は、交付税措置で加算されるということで、実質的な地方負担は、一般財源とあわせて 55%とのことです。ちなみに、県教委では、今年度の県立高校への電子黒板の導入として、デジタル債を利用予定で、総務省に申請するところです。なお、電子黒板や端末整備についてですが、デジタル債は、購入する場合に活用でき、リース契約では対象にならないそうです。続いて、児童生徒の学習用端末整備でデジタル債を使う場合も紹介しておきます。義務教育段階の場合は、

事業費の３分の２は、ＧＩＧＡスクール基金の補助金で市町村への支援がされています。市町村負担分の３分の１について、一般財源で全額確保していただいてもいいですし、デジタル債を活用いただくことも可とのことです。ただし、この場合のデジタル債については、元利償還金に対する交付税の加算は無いということです。また、デジタル債の活用例では、オンライン学習システムなど、システム整備についても対象になるそうです。

４　統合型校務支援システムについて

五味指導主事：それでは、県で共同調達を行っている統合型校務支援システム「C4th」について、次年度導入に向けたスケジュールと手続きの流れをご説明いたします。まず、７月に各自治体へ次年度導入に関する意向調査を行います。この際、C4th 本体に加えて、オプション機能の導入希望についても、あわせて意向を確認いたします。たとえば、「tetoru」などのオプションサービスについても、ここで導入の希望を示していただく形となります。意向調査の回答期限は８月末です。続いて、９月には、意向調査において「参加を希望する」または「検討中」と回答いただいた自治体に対して、正式な申込みとなる「利用届」の提出を依頼いたします。この利用届の提出期限は、10 月中旬となっております。その後、11 月には、利用開始に向けて必要となる学校情報等の提出を、各自治体にご依頼いたします。こちらの情報の提出期限は 11 月末になります。なお、利用届提出後に予算の都合などで内容の変更が必要になった場合は、２月末までに県教育委員会までご連絡ください。また、オプション機能の追加導入についても、原則としてこのスケジュールに沿って翌年度からの稼働となります。ただし、どうしても年度途中からの稼働を希望される場合は、年に１回、10 月１日からの稼働開始に限って対応しております。その際の利用届の提出期限は、その３か月前の７月となりますのでご留意ください。また、問い合わせ先に関して、まとめましたので、こちらもご確認をお願いします。以上、C4th の共同調達についての説明です。

５　情報交換

グループに分かれて市町村間で意見交換

令和７年度　長野県ICT学び推進協議会（長野県GIGAスクール会議 第１部）　参加者名簿

学識者	信州大学教育学部（教授）	村松　浩幸	
	信州大学教育学部（准教授）	森下　孟	
	一般財団法人特別支援教育士認定協会理事・公認心理師	両川　晃子	
学校関係者	阿智村立清内路小学校（校長）	齊藤　圭子	
	信濃町立信濃小中学校（校長）	佐藤　利恵	
	上田市立丸子北小学校（校長）	野沢　重徳	
	松本市立清水中学校（校長）	武井　利博	
	辰野町塩尻市小学校組合立両小野小学校（養護教諭）	吉越　友唯	
	須坂市立小山小学校（教諭）	舞澤　典子	
	安曇野市立堀金小学校（教諭）	織田　裕二	
	東御市立北御牧小学校（教諭）	大川　雅也	
市町村教育委員会	長野市教育委員会（教育長）	丸山　陽一	代理出席：酒井氏
	佐久市教育委員会（教育長）	吉岡　道明	代理出席：小林氏
	上田市教育委員会（教育長）	酒井　秀樹	
	松本市教育委員会（教育長）	曽根原　好彦	
	塩尻市教育委員会（教育長）	赤羽　高志	
	箕輪町教育委員会（教育長）	小林　久通	代理出席：野竹氏
	小川村教育委員会（教育長）	北田　愛治	
	喬木村教育委員会（教育長）	丸山　貢弘	
長野県教育委員会	長野県教育委員会	武田　育夫	教育長
	総合教育センター	北原　大介	専門主事
	特別支援教育課	北島　篤	指導主事
県関係者	企画振興部ＤＸ推進課	坪井　康徳	学校ＤＸ戦略アドバイザー
	長野県市町村自治振興組合	木我　弘則	主任
ICT教育推進センター事務局	信州大学	島田　英昭	ICT教育推進センター長
	学びの改革支援課	一色　保典	課長
	学びの改革支援課（義務教育指導係）	田中　篤	義務教育指導係長
	学びの改革支援課（義務教育指導係）	五味　和高	指導主事
	学びの改革支援課（義務教育指導係）	櫻田　誠二	指導主事
	学びの改革支援課（学校企画係）	居鶴　吾郎	学校企画係長
	教育政策課	水野　恵子	課長
	教育政策課（教育DX推進係）	井出　洋文	教育DX推進係長
	教育政策課（教育DX推進係）	榑沼　徹	主任指導主事
	教育政策課（教育DX推進係）	伊藤　暢彦	主事
	教育政策課（教育DX推進係）	千原　明子	会計年度任用職員
	教育政策課（教育DX推進係）	依田　恵子	会計年度任用職員

令和７年度GIGAスクール市町村代表者会（長野県GIGAスクール会議　第２部）構成員名簿

所属	教育長　氏名	所属	教育長　氏名
長野県教育委員会	武田　育夫	阿南町教育委員会	勝又　司
長野市教育委員会	丸山　陽一	阿智村教育委員会	黒柳　紀春
松本市教育委員会	曽根原　好彦	平谷村教育委員会	鬼頭　さおり
上田市教育委員会	酒井　秀樹	根羽村教育委員会	柳瀬　賢司
岡谷市教育委員会	宮坂　享	下條村教育委員会	佐川　浩一
飯田市教育委員会	熊谷　邦千加	売木村教育委員会	松村　和芳
諏訪市教育委員会	三輪　晋一	天龍村教育委員会	高山　和夫
須坂市教育委員会	勝山　幸則	泰阜村教育委員会	原田　瑞穂
小諸市教育委員会	山下　千鶴子	喬木村教育委員会	丸山　貢弘
伊那市教育委員会	福與　雅寿	豊丘村教育委員会	壬生　英文
駒ヶ根市教育委員会	本多　俊夫	大鹿村教育委員会	田本　忍
中野市教育委員会	柴本　豊	上松町教育委員会	植原　一郎
大町市教育委員会	中村　一郎	南木曽町教育委員会	松下　幸一
飯山市教育委員会	山田　晃	木祖村教育委員会	青木　信一
茅野市教育委員会	山田　利幸	王滝村教育委員会	吉田　英司
塩尻市教育委員会	赤羽　高志	大桑村教育委員会	野知里　浩寿
佐久市教育委員会	吉岡　道明	木曽町教育委員会	小林　昌治
千曲市教育委員会	小松　信美	麻績村教育委員会	加瀬　浩明
東御市教育委員会	山口　千春	生坂村教育委員会	藤澤　正司
安曇野市教育委員会	橋渡　勝也	山形村教育委員会	大池　昌弘
小海町教育委員会	黒澤　五雄	朝日村教育委員会	百瀬　司郎
川上村教育委員会	藤原　克朗	筑北村教育委員会	内川　雅信
南牧村教育委員会	今井　力	池田町教育委員会	山﨑　晃
南相木村教育委員会	田村　公彦	松川村教育委員会	古畑　元大
北相木村教育委員会	井出　一彦	白馬村教育委員会	横川　秀明
佐久穂町教育委員会	渡邉　秀二	小谷村教育委員会	関　芳明
軽井沢町教育委員会	宮本　隆	坂城町教育委員会	塚田　常昭
御代田町教育委員会	砥石　順一	小布施町教育委員会	山﨑　茂
立科町教育委員会	塩澤　勝巳	高山村教育委員会	澁谷　茂夫
青木村教育委員会	沓掛　英明	山ノ内町教育委員会	竹内　延彦
長和町教育委員会	藤田　仁史	木島平村教育委員会	関　孝志
下諏訪町教育委員会	松崎　泉	野沢温泉村教育委員会	市川　公紀
富士見町教育委員会	矢島　俊樹	信濃町教育委員会	北村　康彦
原村教育委員会	古清水　巌	小川村教育委員会	北田　愛治
辰野町教育委員会	宮澤　和徳	飯綱町教育委員会	馬島　敦子
箕輪町教育委員会	小林　久通	栄村教育委員会	下　育郎
飯島町教育委員会	片桐　健	田市長和町中学校組合教育委員	藤田　仁史
南箕輪村教育委員会	清水　閣成	辰野町塩尻市小学校組合	宮澤　和徳
中川村教育委員会	片桐　俊男	本市・山形村・朝日村中学校組	曽根原　好彦
宮田村教育委員会	加藤　孝志	塩尻市辰野町中学校組合	赤羽　高志
松川町教育委員会	片桐　比呂巳	海町北相木村南相木村中学校組	黒澤　五雄
高森町教育委員会	高野　正延	網掛けは当日欠席の教育委員会	